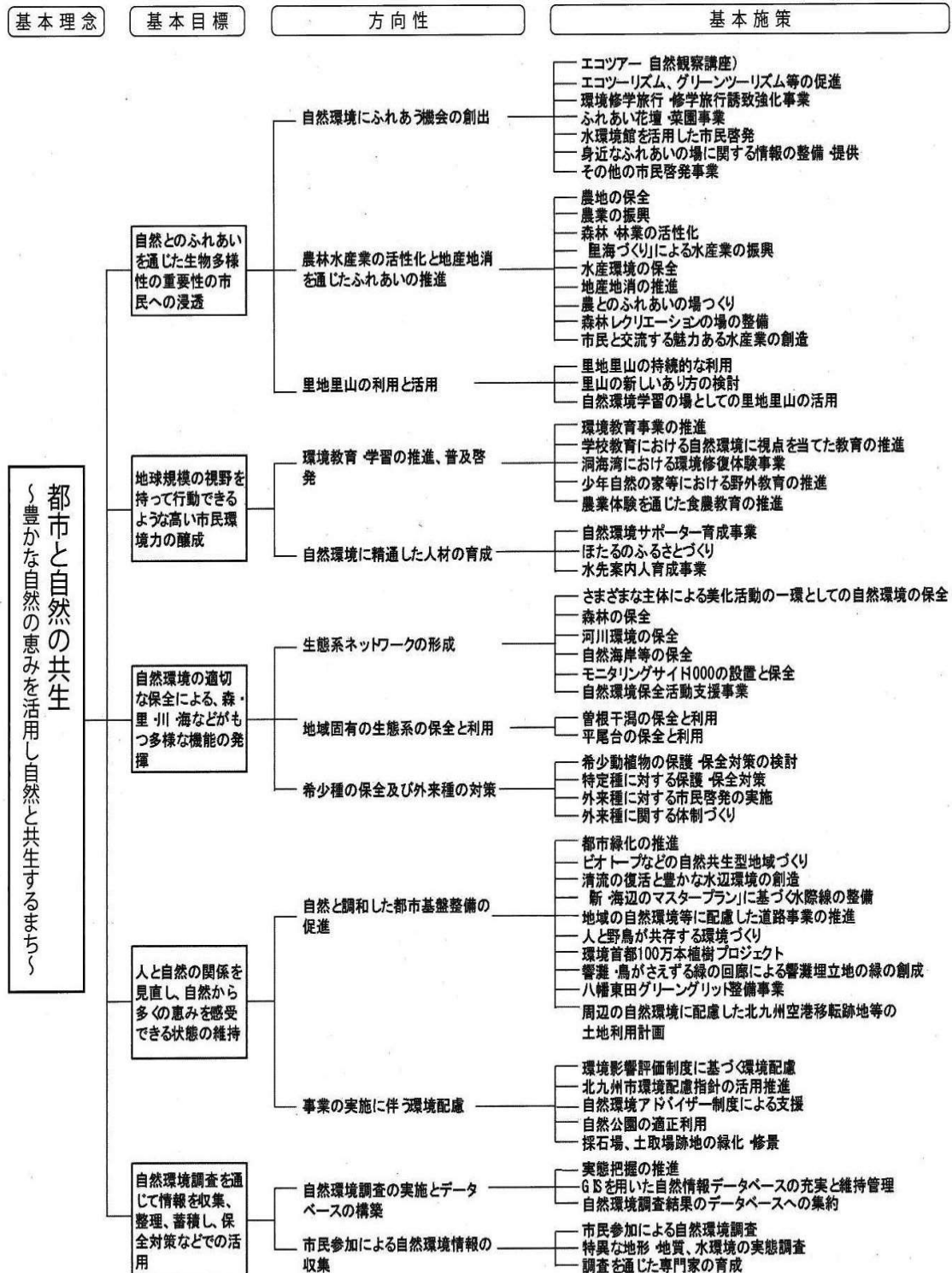


## 第2次北九州市生物多様性戦略<2015年度~2024年度> の進捗状況について(報告)

### 1 戦略の全体像(体系図)

2015年度からの10年間を期間とした本戦略は、「都市と自然の共生」を基本理念とし、5つの基本目標を定め、基本目標ごとに方向性、基本施策を掲げている。



## 2 戦略の推進に向けた数値目標

### 基本目標1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

番号	項目	単位	目標値（年度）
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	人	6,500 (2020)
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	人	4,000 (2020)
3	自然環境体感ツアーの参加人数	人	500 (2019 累計)

### 基本目標2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

番号	項目	単位	目標値（年度）
1	小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	校	25 (2024)
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	人	4,000 (2020)

### 基本目標3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

番号	項目	単位	目標値（年度）
1	自然環境保全に取り組む団体への支援件数	件	10 (2024)
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	人	約 2,000 (2024)

### 基本目標4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

番号	項目	単位	目標値（年度）
1	環境首都 100 万本植樹プロジェクトによる植樹本数	本	1,000,000 (2024 累計)
2	市街地(市街化区域)の緑の確保	%	9.5 (2020 累計)

### 基本目標5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

番号	項目	単位	目標値（年度）
1	ベッコウトンボ市民調査実施回数	回	3 (2020)
2	曾根干潟における生物調査の実施	回	4 (2020)

### 3 5つの基本目標ごとの進捗状況（2016年度）

#### 基本目標1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

##### （1）数値目標の進捗状況

	項目	目標値（年度）	2015年度 （平成27年度）実績	2016年度 （平成28年度）実績
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	6,500人（2020）	5,697人	5,376人
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	4,000人（2020）	4,548人	4,819人
3	自然体感ツアーの参加人数	500人（2019累計）	73人（累計）	163人（累計）

##### （2）方向性ごとの主な施策の進捗状況

##### 方向性1 自然環境にふれあう機会の創出（施策数：7）

- ・「エコツアー（自然観察講座）」では、響灘ビオトープを活動の場としたガイドツアーや、日本カブトガニを守る会福岡支部の協力でカブトガニ産卵観察エコツアーを夏に開催し、自然とふれあう機会を提供。
- ・「エコツーリズム、グリーンツーリズム等の促進」では、一般市民を対象にした環境コンシェルジュ主催の「ドコエコ！ツアー」を開催。
- ・「その他の市民啓発事業」では、いのちのたび博物館において、野外観察会やたいけん教室、特別展として、「ホントはすごい！どうぶつ展」等を開催。

##### 方向性2 農林水産業の活性化と地産地消を通じたふれあいの推進（施策数：9）

- ・「農業の振興」では、新規就農研修及び認定農業者の経営診断・経営改善指導を実施するとともに、農業機械及び栽培施設（ハウス）導入に対して支援を実施。
- ・「森林・林業の活性化」では、荒廃した森林の間伐（139ha）や侵入竹の除伐（3ha）を実施。
- ・「里海づくり」による水産業の振興では、漁業者らが藻場等の環境保全活動を実施。
- ・「地産地消の推進」では、農林水産業への理解を深めてもらうことを目的として、「北九州市農林水産まつり」や「豊前海一粒かき」のかき焼きまつりを開催。

##### 方向性3 里地里山の利用と活用（施策数：3）

- ・「里地里山の持続的な利用」では、小倉南区の中谷地区まちづくり協議会がまちおこしの一環として開催した「漬物コンクール」に約400名が参加。

##### （3）環境局による基本目標1の進捗状況評価

数値目標については一部進捗に遅れがあるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。

## 基本目標 2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

### (1) 数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2015 年度 (平成 27 年度)実績	2016 年度 (平成 28 年度)実績
1	小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	25 校 (2020)	29 校	22 校
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	4,000 人 (2020)	4,548 人	4,819 人

### (2) 方向性ごとの主な施策の進捗状況

#### 方向性 1 環境教育・学習の推進、普及啓発（施策数：5）

- ・「環境学習事業の推進」では、市民全体の「環境力」の強化を図るため、「北九州市環境首都検定」を実施し、過去最高の 3,185 名が参加。
- ・「学校教育における自然環境に視点を当てた教育の推進」では、市内の全小学校 4 年生を対象にした「環境アクティブ・ラーニング」を実施し、市内の自然にふれることのできる施設や環境関連施設を訪れ、環境体験学習を実施。また、「ユネスコスクール」に小学校 1 校、中学校 2 校が新たに加盟登録。
- ・「洞海湾における環境修復体験事業」では、洞海湾周辺の小学校（若松区修多羅小）を対象として「ムラサキイガイを用いた洞海湾の環境修復体験教室」を実施。（内容：中間観察会、マイロープ引き揚げ・堆肥化、マイロープ吊り下げ）
- ・「農業体験を通じた食農教育の推進」では田植えや稲刈りなどの農作業体験、子供たち自身によるバケツ稲の栽培などの農業体験学習を開催。

#### 方向性 2 自然環境に精通した人材の育成（施策数：3）

- ・「ほたるのふるさとづくり」では、市民を対象として、ホテルや水辺環境について学ぶ学習会「ほたると水辺の環境学習会」を年 5 回開催。
- ・「自然環境サポーター育成事業」では、新たな人材育成の方法について自然ネットで検討を継続。

### (3) 環境局による基本目標 2 の進捗状況評価

数値目標については一部進捗に遅れがあるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。

## 基本目標3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

### (1) 数値目標の進捗状況

	項目	目標値(年度)	2015年度 (平成27年度)実績	2016年度 (平成28年度)実績
1	自然環境保全に取り組む団体への支援件数	10件(2024)	10件	11件
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	約2,000人 (2024)	約2,000人	約2,600人

### (2) 方向性ごとの主な施策の進捗状況

#### 方向性1 生態系ネットワークの形成(施策数:6)

- ・「森林の保全」では、市営林の管理(下刈り0.25ha、間伐0.77ha)や、竹等粉碎機の貸出を実施。
- ・「河川環境の保全」では、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことでホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる「水辺環境整備事業」を推進。
- ・「自然海岸等の保全」では、若松区岩屋海岸・脇田海岸、門司区門司港レトロ地区、八幡東区東田親水緑地など、みなとや海辺で活動する市民団体が海岸清掃や花植えなどの活動を実施。また、市はこれらの活動に対し助成金を交付し活動を支援。

#### 方向性2 地域固有の生態系の保全と利用(施策数:2)

- ・「曽根干潟の保全と利用」では、環境省のモニタリングサイト1000で、シギ・チドリのコアサイトに指定されている曽根干潟の鳥類調査結果を収集し、情報を蓄積。
- ・「平尾台の保全と利用」では、平尾台自然の郷で各種イベントを開催し、適切な利活用や広報を実施。

#### 方向性3 希少種の保全及び外来種の対策(施策数:4)

- ・「特定種に対する保護・保全対策の検討」では、市民、NPO、行政等で連携して希少な水草であるガシャモクの保全及び広報を実施。
- ・「外来種に対する体制づくり」では、平成27年8月に特定外来生物の「ツマアカスズメバチ」の営巣が確認されたため、引き続き、環境省九州地方環境事務所と連携して営巣状況などの調査を継続して実施。

### (3) 環境局による基本目標3の進捗状況評価

数値目標についてはおおむね目標を達成しており順調に進捗している。方向性ごとの主な施策の進捗状況についても内容に応じた取り組みが推進されている。そのため、**基本目標の達成に向け順調に進捗している。**

## 基本目標4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

### (1) 数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2015 年度 (平成 27 年度)実績	2016 年度 (平成 28 年度)実績
1	環境首都 100 万本植樹プロジェクトによる植樹本数	1,000,000 本 (2024 累計)	657,903 本 (累計)	678,186 本 (累計)
2	市街地 (市街化区域) の緑の確保	9.5% (2020 累計)	8.2% (累計)	8.3% (累計)

### (2) 方向性ごとの主な施策の進捗状況

#### 方向性 1 自然と調和した都市基盤整備の促進 (施策数 : 10)

- ・「清流の復活と豊かな水辺環境の創造」では、紫川遊歩道の整備など、市民の潤いと憩いの場として活用するとともに生物の生息・育成空間を保全することで親しみのある河川を取り戻す環境整備を実施。
- ・「人と野鳥が共存する環境づくり」では、日本野鳥の会北九州と協働で、響灘ビオトープにおいて、コアジサシ (環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類) の繁殖を目的とした砂礫地攪拌及び除草等を実施。
- ・「響灘・鳥がさえずる緑の回廊による響灘埋立地の緑の創成」では、緑の回廊植樹会を開催し、約 1,500 人の参加者により、約 6,500 本の植樹を実施。

#### 方向性 2 事業の実施に伴う環境配慮 (施策数 : 5)

- ・「環境影響評価制度に基づく環境配慮」では、条例対象案件の方法書 1 件、準備書 1 件の審査を実施。
- ・「北九州市環境配慮指針の活用推進」では、48 件の公共事業について点検を実施。

### (3) 環境局による基本目標 4 の進捗状況評価

数値目標については一部進捗の遅れやペースの鈍化が見られるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。



## 基本目標 5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

### (1) 数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2015 年度 (平成 27 年度)実績	2016 年度 (平成 28 年度)実績
1	ベッコウトンボ市民調査 実施回数	3 回 (2020)	3 回	3 回
2	曾根干潟における生物調 査の実施	4 回 (2020)	7 回	7 回

### (2) 方向性ごとの主な施策の進捗状況

#### 方向性 1 自然環境調査の実施とデータベースの構築 (施策数 : 3)

- ・「実態把握の推進」では、本市固有の生態系が維持されている曾根干潟を中心に本市による生物調査を実施。また、曾根干潟は環境省によってモニタリングサイト 1000 のコアサイト (シギ・チドリ) に指定されており、環境省による調査も実施。
- ・「GIS を用いた自然情報データベースの充実と維持管理」では、希少種の位置情報のデータベースを更新。

#### 方向性 2 市民参加による自然環境情報の収集 (施策数 : 3)

- ・「市民参加による自然環境調査」では、響灘ビオトープでベッコウトンボの市民参加の調査を実施。3 回でのべ 120 人の市民が参加。また、3 回の調査でのべ約 700 頭のベッコウトンボを確認。

### (3) 環境局による基本目標 5 の進捗状況評価

数値目標についてはおおむね目標を達成しており順調に進捗している。方向性ごとの主な施策の進捗状況についても内容に応じた取り組みが推進されている。そのため、**基本目標の達成に向け順調に進捗している。**

## 第 2 次北九州市生物多様性戦略（2015 年度～2024 年度） の進捗状況の補足について

### 1 補助的な指標による評価（平成 27 年度・平成 28 年度市民意識調査から）

毎年実施されている市政評価において、生物多様性戦略に特に関係の深い市の政策（「自然環境の保全と自然とのふれあいの推進」、「公園の整備など、緑のまちづくりの推進」）の評価は、全 34 項目中 26 位（平成 27 年度・平成 28 年度）と 3 位（平成 27 年度）・4 位（平成 28 年度）となっている。

以上から、緑のまちづくりについては市民から既に高い評価が得られている一方で、自然環境保全や自然とのふれあいについては、他の環境分野と比べても、市民から高い評価を得られておらず、今後更なる取組の推進が必要である。

（表）市政評価の経年変化（評価）抜粋

調査項目	（順位）と平均スコア	
	平成 27 年度	平成 28 年度
15 公園の整備など、緑のまちづくりの推進	(3) .410	(4) .387
30 ごみの適正処理とリサイクル	(2) .636	(2) .551
31 大気・騒音・水質などの環境保全	(9) .174	(7) .203
32 地球温暖化対策、省エネ、再生可能エネルギーの推進	(13) .126	(11) .159
33 自然環境の保全と自然とのふれあいの推進	(26) .043	(26) .046

環境

### 2 SDGs の観点からの評価

#### ○環境基本計画（環境首都・SDGs 実現計画）から見た生物多様性戦略と SDGs の関係性

昨年 11 月に改定された環境基本計画（副題：環境首都・SDGs 実現計画）においては、第 2 次生物多様性戦略の内容も盛り込み、SDGs の 17 のゴール・169 のターゲットとの関係性を整理した上で、今後、環境政策の観点から SDGs の実現を図ることとしている。

改定環境基本計画と第 2 次生物多様性戦略、及び関連する SDGs を整理すると、本紙裏面（図）のとおりであり、来年度以降、環境基本計画の進捗点検と生物多様性戦略の進捗点検を連携して実施し、生物多様性戦略に係る SDGs の進捗についても評価を行うものとする。

（裏面（図）生物多様性戦略と環境基本計画、SDGs について）



(図) 生物多様性戦略と環境基本計画、SDGs について

